

## ② 困った行動について考えてみよう



困ったなと思う行動について、まずはよく観察してみましょう。  
観察をすることで解決へのヒントを見つけることができます。

※どんな場面・時間・場所で起こりますか？

⇒起こりやすい場面などが予測できると、対応する大人も落ち着いて対処できます。事前に起こりにくくする対応を考えておくことも重要です。

※困った行動が起こるときは、周りの環境はどうでしたか？

⇒ざわざわしていると起こりやすかったりなど、子どもの気持ちが不安定になったり、イライラしたりしやすい環境が見えてくるかもしれません

※困った行動をしていないときは、どんな時ですか？

⇒大人も余裕がなくなると、いつも子どもが困ったことをしているように感じてしまうことがあります。よく見てみると、落ち着いて過ごすことができたり、やめてほしい行動をせずに過ごすことができている場面もあるかもしれません。

※困った行動が起こった後、周りの人はどのように対応していますか？

⇒子どもが辞めてほしい行動をした後、大人がどのように対応すると落ち着きますか？子どもをより興奮させてしまう言葉かけや行動、困った行動をひどくしてしまう言葉かけや行動もあるかもしれません。

### メモを取ることを習慣にしてみましょう

困った行動について観察するとき、下の3つの箱に分けてメモを取ると整理しやすいです。園の先生や保健センターなどの相談機関に相談するときにも、相手により伝わりやすくなるのでお勧めです。

